『國民新報』1940年3月17日

[主張]　朝鮮の佛教[[1]](#footnote-1)

　その、はのえたであつた。、、、、、のをし、のにのをゑけて、三、そ一千年をじてのたるをりしたのである。

　のに、めてにをしたのはであつて、にをじたてまつつたのはの[[2]](#footnote-2)である。

　るにののはなるにあるのか。のをとして、のがのをなしたは をしむべきりであるが、はのととをへられたるにもらず、つての一をりつゝあるごとくゆるはであるか。がをにするのはまだしもとして をひ、をき、をけ、としてのをみず、さへもすべきひは、にいてえざるばかりでなく、となることさへ どといふである。なるやには、のをむべきものがあるが、いはゆる、のにりては、どのをさへめてゐない。とふづべきであらう。

　をめ、のがのにしてゐたのが、のでされたのはありがたきせであるが、侶たちののは、のにらなければならない。つにしてましいことは、のにするのであるとふ。

　のとはか。一に である。をばしたり、バリカンりに することをじて、にて らしむべきである。二はのである。やの をじ、で いはゆるのをし、をさすべきである。そもそもかゝる のは、に のためにであるばかりでなく、に一のをつての である。をして をることによつて、のをおこさしめることである。それはまた にの のきけともなるものである。かゝるのは そのものの取締と ることがない。のひをしたはちにより るべきである。

　やは のため、のため、なるきをする となつた。ことににいて りである。もせず、もへず、もせず、のもへず、かゝる はのである。かゝるは 一もくよりくべきであり、らに のをつて、やのをのみ するなるたらしむべきでない。

　のをすとに、が一のをかむことを んでまない。

1. この文章は一部「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 新聞では「けいじ」とルビが振られている。 [↑](#footnote-ref-2)